宇仁郷通信

No.148
令和 3 年(2021)11 月

発行：宇仁郷まちづくり協議会（編集:情報部会）

宇仁ふれあいバス 運行開始から 1 年

宇仁ふれあいバスは、10 月 1 日で運行開始から 1 年となりました。

宇仁地区の高齢化が進んで行く中、宇仁郷まちづくり協議会で高齢者の買い物や通院などの移動手段を確保したいとの思いから、平成 29 年度に地域住民の方にアンケート調査を行った結果、地域交通は是非とも必要であると考え、当方の要望（北条市街地への乗入れ）は受け入れられませんでしたが、中富口乗り換え（案）で市役所との調整・協力を得て昨年 10 月 1 日から試験運行を開始しました。

バスの運行は地域住民の有志で全てを行っていますが、全員がバスを走らせるための作業について「ずぶの素人」であるため、準備する内容等が分からず日々だけが過ぎて行く状況でしたが、市役所の協力を得ながら準備（バスの運行許可申請・運転員の講習受講・法令対応書類の作成・事務所の設置など）を進めて何とか試験運行開始日に間に合わせることが出来ました。

運行を開始してからは、試験運行の状況を見て昨年 12 月に時刻改正を行い、本年 8 月に滝野図書館に待合所を追加設置するなど、地域住民の皆様に利用してもらい易いように見直しを行ってきました。利用に際してのご要望・ご意見などがありましたら「宇仁ふれあいバス部会」までご連絡をお願いします。

運行実績は、1年間で 244 日の運行を行い、延べ 874 人（内、小学生 11 人）の方にご利用（乗車）いただきました。ご利用ありがとうございました。その間事故等も無く、安全運行を続けております。

最後にお願いです。延べ 874 人の方にご利用いただきましたが、利用者数の目標（8 人／日）に対して半分以下（約 3.4 人／日）の利用実績となっています。「宇仁ふれあいバス部会」全員で今後も安全・安心な運行を続けて行きますので、是非ともご利用いただきます様、よろしくお願い申し上げます。　（宇仁ふれあいバス部会）

これからの宇仁の朝市

開店直後、にぎわいを見せるぽかぽ店

宇仁の朝市は平成 21年 7 月 5 日に「根日女の湯」でオープンしました（平成 25 年 10 月に根日女の湯閉店にともない同年 11 月に青野店オープン）。そして翌平成 22 年 7 月 3 日に「ぽかぽ店」がオープン、その後、芦屋市の翠ヶ丘で 39 回、北播磨ふるさとフェスタや加西サイサイまつりなどにも参加するなどして 12 年が経過しました。しかし、これからの宇仁の朝市を運営するにあたり課題が沢山あります。

一つ目は男性スタッフ 7 人の平均年齢が 73 歳と高齢化してきたこと、女性スタッフ 20 数人も同様です。二つ目は生産農家も同じ傾向が認められ、出荷していただける方の確保も課題となってきています。

3 年後の 15 周年と 8 年後の 20 周年を迎えるためスタッフならびに生産者一同頑張ってまいりますが、どうか地域の皆様方、ボランティア参加にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。　（宇仁の朝市　繁田進作）

幸せの青いカエルを発見！！

澄んだ青空のような水色のカエルを青野町の岡田さんが見つけた。「青い鳥のように、宇仁郷に幸せを運んでくれるのでは」と、自宅で大切に飼育している。

6 月 24 日夕方、自らが管理している田んぼの草刈り中に、ひょっこりと出てきたのがこの珍しい色のカエルだった。自宅へ帰った後、インターネットでこのカエルの珍しさを改めて知ると「小さい時から池や田んぼなどでカエルを当たり前のように見てきたが、青いカエルは初めて見た！」と興奮気味に語り、また、この日は“UFO（未確認飛行物体）の日”ということもあり、岡田さんは「まさかこのカエルは宇宙から青野へ来たということはないよね」と笑顔で青いカエルを見つめていた。

（注）紙面の都合で掲載できなかった記事を数か月遅れで掲載しています。現在このカエルは生存していません。

宇仁小学校の思い出 ⑧ ～宇仁小学校の歩道橋 シンボルマークに込められたもの～

宇仁を離れて 4 年。小学校前のあの道を通ることもめっきり少なくなりました。しかし、歩道橋の下を通ることがあると、いつもシンボルマークを見上げています。先日は、車に同乗していた妻に「このマークなんの意味があると思う。」とあたかも自分の功績のように話をしました。

私が宇仁小にいたときに歩道橋の改修工事が行われました。それまで水色一色だったものが、地域の方の提案で青色・水色と白色の3色に塗り分けられ、シンボルマークがとても見やすくなりました。

そのことを学校だよりに当時次のように記し、児童朝会でも全校生に話をしました。

実はこのシンボルマーク、カタカナの「ウ」の字を、上下から2つ組み合わせてあります。「ウが2」で「うに」を表すのだそうです。歩道橋は、学校のものではないため、校章を入れるわけにはいかず、このような図案になったとのことでした。

この歩道橋が建設されるときに、当時の地域の方々や校長先生が、「宇仁小学校・宇仁校区に愛着を持ってもらうために歩道橋に校区のシンボルマークをつけてほしい」と要望を出されたそうです。県では、過去に歩道橋にシンボルマークをつけた例がなく、交渉は難航したそうですが、ねばり強く交渉を重ねられ、設置に至ったそうです。

今度、歩道橋の下を通られる際には、これが宇仁のシンボルマークだと誇りに思い、見ていただけるとありがたいです。それが「宇仁小学校・宇仁校区に愛着を持ってもらいたい」という建設当時の地域の方々の願いを叶えることにもなると思います。

そして、シンボルマークがわかりやすくなるように提案してくださった宇仁を愛する地域の方々に感謝します。

私が宇仁小学校にお世話になったのは、たった 1 年です。しかし、とても 1 年とは思えないほどのいろいろな経験をしました。宇仁郷のたくさんの方に仲良くしていただき、いろいろなことを教わりました。そして、シンボルマークに込められた『宇仁を愛する強い思い』を感じました。

宇仁小学校に少しでも関わることができたことは、私にとって誇りであり、財産です。ますます宇仁郷が発展されますことを願ってやみません。

ありがとうございました。　　（H28.4.1～H29.3.31 校長　岩見 信吾）

宇仁郷のあゆみ　第一章 宇仁郷の黎明期⑤

⑤ 加古川西部土地改良事業による農地改革

この事業は農業用水を確保して、ほ場の区画面積の拡大を図る一体化事業で、昭和 33 年（1958）の陳情にはじまり、34 年（1959）からダムの調査設計を開始、昭和 42 年（1967）に着工し平成 2 年（1990）に完成。ほ場整備は、昭和 57 年に着工し平成 7 年（1995）に完成しました。この大事業は構想から実現まで 37ヶ年の歳月を要しましたが、農地の高度利用が可能となる大改革でした。

⑤-1 糀屋ダム（翠明湖）の完成

播磨平野中部に位置する加西市周辺の降雨量は、瀬戸内海気象の影響を受け 1,300mm／年と少なく、昔から農地の水不足に悩まされてきました。これを解消し農業用水を確保するため、加西郡 3 町（北条・加西・泉）の町長が昭和 33 年（1958）農林水産大臣に陳情したのが事のはじまりです。

農業用水を確保するダムは多可郡糀屋村に計画され、5 市 1 町（加西市・小野市・西脇市・加東市・多可町・姫路市）にまたがる農地 3,700haに給水するものです。ダムの規模は満水面積 87ha、奥行 2.7 ㎞、ダムへの給水は杉原川・野間川・仕出原川よりポンプアップで行い、堰堤は砕石で固めたロックフィル形式のダムです。湖底に沈んだ 1 集落 44 戸の協力を得て昭和42年に着工し、600 か所のため池への給水管路の敷設を含めたダム工事は総事業費 433 億円の巨費を投じて平成2年に完成しました。